

# 猫じやらし

佐藤晴美









# 美術

## ★宮田雅之切り絵展

10月5日(水)～10日(月)10時～19時 神戸そごう新館7階特別催会場 入場無料



「虫の声」  
「雅之」  
「谷崎潤一郎」

鋭い刀(とう)の先端に魂と熟練の技を秘め絵筆に代わる自由さで絶妙の線を描き出す切り出し

挿絵画家としてデビュー。以来、海外にも幅広く活躍する氏の世界を紹介。優美な平安朝を描いた「万葉恋歌」も特別出品される。

## ★香雪美術館

### 「館蔵の名刀展」

10月21日(金)～12月11日(日)10時～17時(開期中無休) 香雪美術館(阪急御影駅下車徒歩5分) 大人500円 中学生以上300円

朝日新聞社を創設した村山龍平翁(号香雪)によって明治、大正、昭和を通して収集された古美術品の数多を所蔵する香雪美術館。質、量ともに屈指の武器武

# 音楽



## ★鼓童―原始の音を鼓撃しつ―

11日(火)18時30分 神戸国際会館 3300円(民営会員3000円)

## ★デューク・エリントン楽団

12日(水)18時30分 神戸文化ホール S5000円 A4000円 B3000円

## ★モーツァルトをあなたに

12日(水)19時 神戸文化ホール 3000円

## ★丸山有子ソプラノリサイタル

13日(木)19時 神戸市立博物館 2500円 終演後ワインパーティあり(別料金)

## ★キャトル・ロニー・サキソフォ

14日(金)19時 宝塚バガホール 2500円

## ★ニル・ベナルジー・メモリア

15日(土)18時 パーズビル(JR住吉駅西へ5分) 2300円

## ★中川博志、辻口謙治ほか

16日(日)18時30分 神戸ユニオン教会 2000円



# 演劇

## ★劇団民芸公演「ドストエフスキイの妻を演じる老女優」

8日(土)18時15分 神戸文化ホール 一般3000円

## ★劇団おるむ公演「大どろぼう」

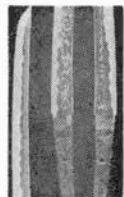
8日(土)19時 9日(日)10日(日)11時 30分 西屋ルナ小ホール 大人2000円 中学生1700円 小学生1500円

## ★演劇集団円公演「真昼にみかづき」

14日(金)18時30分 ビックコシアター 一般4000円 中学生2800円

## ★上海京劇

11月3日(木)13時 18時 神戸文化ホール S3000円 A2000円 B1000円



具コノシヨシノレク  
備前長船宗光作

から今回は刀剣を中心に展示される。



# 映画

## ★予告された殺人の記録

10月上旬より「新アサヒ劇場」にてロードショー 一般1500円 大生1300円

カリブ海を舞台に繰りひろげられる謎に満ちた復讐

## ★劇団らせん館「かげき物語」

9日(日)18日(火)14時 19時 近松の芝居小屋(阪神杭瀬駅より北西徒歩7分) 一般2000円 大学1700円



# 舞踊

## ★秋の民舞フェスティバル

23日(日)10時 神戸文化ホール 500円

## ★合同バレエのタベ

10日(月)17時 ビックコシアター

## ★幾代恵路・舞踏公演「白牡丹」

30日(日)18時 ゴール劇場(神戸風月堂ポートピア) 2800円



# 映画

## ★市民映画劇場「味のいい部屋」

14日(金)18時30分 15日(土)14時 16時15分 18時30分 シーガルホール 800円

## ★シイガル名画劇場「飢饉海峡」

21日(金)14時 18時30分 シーガルホール



# 美術

## ★大丸美術画廊

アールデコの奇才・エルテの世界展 10/6～10/11

京洛屏風展 10/13～10/19

ガレイドーム兄弟展 10/20～10/25

第20回 輪島うるし展 10/27～11/1

★そごう美術画廊

宮野輝夫・童女観世音菩薩展 10/12～10/17

飯原一雄油絵展 10/19～10/24

松尾洋明油絵展 10/26～10/31

★ギャラリーあじさい

中村百合子個展 10/18～10/23

山田美耶子日本画展 11/1～11/9

★画廊ひこばえ

グループチャキ作品展 10/10～10/16

神戸サンクレバーグループ作品展 10/18～10/23

神戸商芸会展 10/25～10/30

★心斎橋バレット 11/1～11/8



劇。ノイ  
ベル賞作  
家G・ガ  
マルケス  
の同名の  
小説を名  
匠フランチェスコ・ロージ  
監督が映画的手法を駆使して描いた文芸大作。コロンビアでの大がかりなロケが宿命的事件をよりリアルに映し出している。  
★このチケットを5名様にプレゼント。希望者は葉書に住所、氏名を明記し神戸子「映画招待」係



淀川長治  
映画評論家



# ケン・ラッセル描く 狂気の「サロメ」

男性のサロメをワイルドは星の輪で包み月のペールをかけた。ピアズリーのさし絵がサロメを香水にした。「サロメ」の第一幕は「今宵の月はレモン色」と武士のふたりが恐ろしげに語り合うところから幕を開ける。「サロメ」は静かにそそいでいきを吞む舞台劇。これは何度も禁止となった。ありとあらゆる舞台女優がサロメを演じながら。これほど美しい花は、女のがこれ。しかも毒を持った花。この花にふれるとたちまち命をうばわれる毒花。これぞ女のがこれ。それが何度も上演禁止。理由はあまりにもエロティック。もつときびしき理由は男の首に接吻。しかも死せる男の首に。さらに理由をつけられてサロメが男の死せる首を抱えたときサロメの白い上着のうらがめくれるやその上着の裏の白い布は真赤な血で染まり、血をすすることがときサロメ。英国はきびしく「サロメ」をいましめ「サロメ」を英国から追放しようとした。

そのサロメが映画では、セダ・バラ、ナジモヴァ、リタ・ヘイワースその他さまざまのサロメとなって登場したが実はそのどれもが遠くワイルドに描く「サロメ」ではあり得なかった。ナジモヴァの「サロメ」(一九二二)を私は神戸新聞地の松本座で見た。このころアメリカのユナイテッド映画を松本座がひとところ独占していた。この

「サロメ」は美しかった。ヴァレンティノ夫人で舞台美術家のナタアシャ・ラムボウがナジモヴァとレズビアンレズビアンの仲となりナジモヴァの「椿姫」(一九二二)もナタアシャのセツト美術デザインに依った映画。とくにナジモヴァの「サロメ」はバレエ・スタイルで、かつてこれほどまでのざんしんなセツト・デザインと衣装はダグラスの「バグダッドの盗賊」(一九二四)くらいのものである。けれどもこのナジモヴァの「サロメ」にしても当時のモダン・アート美術に酔っただけで、しいて言えばヨハネがまったくのセクシー・ムード・ゼロの枯葉のごとき男をもってヨハネにしていたことが面白かったらしい。「偉大な生涯の物語」(一九六五)

はジョージ・ステイヴンズの監督大作だったがこのときのヨハネはチャールトン・ヘストンでサロメは小さなといたい走り回っている女の子であった。ステイヴンスはサロメ



ヘロデ王と王妃ヘロデア



ワイルドと皿の上のヨハネ

を冷静な目でまともに描き遠くワイルドの「サロメ」からかけ離れたサロメ・リアリズムであった。

さて今回はその名を聞くも楽しくもおそろしきイギリス生れのケン・ラッセル監督の「サロメ」(一九八七)。これを輸入したヴェストロン社に感謝したい。ここにサロメは実体をさらけだした。九十五年まえオスカー・ワイルドは「サロメ」を書いた。このあと四年フランスに逃れたが、ワイルドは同性愛というよりも貴族の息子との男色関係で二年の監獄生活のあとフランスに逃れパリで死亡した。

男であるワイルドが相手<sup>あいつ</sup>を愛することを男のゆえに法の手で許されなかったワイルドは「サロメ」を執筆<sup>しつづ</sup>し

た。いくら愛しても許されぬ愛ゆえにその男の首を切り、ここに思う一念その首に接吻し得たが、そのとき義父のヘロデがサロメを狂気したと叫び武士たちの桶で圧死させた。大正の初め私は神戸の聚楽館で松井須磨子のサロメを見た記憶がある。このあと須磨子は自殺したはずだ。小学一年生になるやならずの私はこの舞台でサロメが六名ぐらいの武士の桶にとりかこまれ次第に押されに押され押しつぶされて武士たちの足もとに倒れて、ころげ回って苦しみうめき死ぬそのときの彼女のキラキラ光ったみどり色の衣裳それが男たちの足のあいだから見えたのがこわかった。

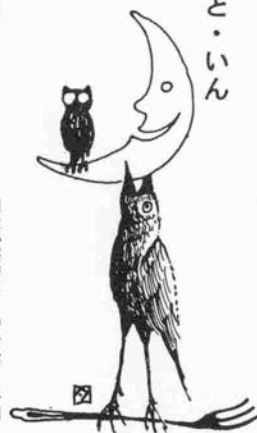
サロメはオペラにもなり舞踊にもなり、東京でジジ・ジャンメールの「サロメ」を見たときはサロメがヘロデの命令で踊りながら七枚の衣服を脱ぎ捨てるところを満月にかかった七枚のうす絹の雲が踊りにあわせ一枚つづ地上に落ちてくる演出が面白かった。

さてケン・ラッセルの「サロメ」は、まさに少年としか思えないイモジェン・ミライスリスコットという異様な若いチンピラめいた新人女優を用い彼女はしかし、見事にワイルドの「サロメ」の名台詞をしやべりながらもその鼻の下にはうすひげが感じられ、これまでのサロメの妖美は根こそぎもぎとられヘロデの前で、皮をむいたバナナを口にほおばるところのわいせつさ、そして母のヘロデや、このひとだけはケン・ラッセルお気に入りのグレンダ・ジャクソンが扮し、この映画の構成は、いかにわしき男娼の館にワイルド自身が登場し彼が自分の「サロメ」の舞台を床の上のクッションにからだをのびし演出家として見物するスタイルをとり、彼がこの家で少年と接吻するところまで見せ、「サロメ」第一幕の「宵の月はレモン色……」というその書き割りの月も真赤にしたり、そして鉄かごの中から引きあげられたヨハネはワイルド自身をメイキャップさせたときヨハネ。

ビアズリイのバリの香水デザイン、月下の妖花のごとき、このサロメをケン・ラッセルは少年サロメがヨハネの大切なところまで切り落させたのだとは思えるほどのこれは映画であった。



ひっと・いん



# ★飲食健康

中国では古くから「食在広州」と言われ、また世界の国々の料理に大きく影響を与えてきました。そして10月2日、本場の味が気軽に愉しめる店としてチャイニーズレストラン花咲く街角が藤原台にオープン。

店の造りは中華風の親しみ易さと洋風の豪華さがクロスオーバーしてなかなか。また調理長に香港から尹達剛(ワン・タ・コン)氏を招き、その味へのこだわりは一流。広州料理の淡白で素材の持ち味を生かした調理法は最も日本人に合う料理であり、健康の事も考えてあるので、もう最高!



尹達剛調理長の技も冴えて、

■大小宴会は6名以上で3千円、北区藤原台北町7-4-1 981-11100 10/5~11/5まで神戸っ子10月号持参の方に、れなく中国菓子をプレゼント。

★若い女性に大もての玉利さんのタマリンドメキシコ料理の店「ティ



可愛い人形が迎えてくれる

ファーナ」の姉妹店タマリンドが今、神戸の女性の間で赤丸付人気が上昇中。タマリンドとはメキシコの巨木の名で、僕の名前ではないのです」とマスターの玉利茂樹さん。ティファアナとはまた違った味わいのある店で、料理は勿論、器にも凝り凝り。「コースもありますが、一品メニューがおすすすめ」なのだ。

ハメニメニュータコス800、パエリジャ一人前・1500、三人前・3600、コース/マリスコス(魚介類)3500円、カルネ(肉料理)

4500円、タマリンド(肉+魚介)5500円、立食スタイルなら50名までのパーティ可  
■中央区下山手通2-11-30 T.N.IIビル2F 5PM~12AM 火曜休 333-6699

# ★旅を愛する人、集合

三宮東急イン地下の喫茶店きたぐに自由席は、のんびりずむの旅を愛する人々のコミュニケーションスポットだ。旅好きにとつて北海道は永遠のテーマ。かつて特急「きたぐに」に揺られて道内を巡った思い出を店に託したというマスターの加藤明さん。店内には旅の情報を満載した手作りのファイルや、書物が並んでいる。ランチやドリンク、夜はアルコール類もあって、誰ともなしに旅の思い出を語り合いながら楽しいひとときを過ごせる。「旅から帰って思い出に浸れる所にして下さればうれしいですね」と加藤さん。



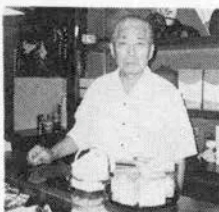
マスターも旅のベテランです

■中央区雲井通6-1-5 東急インBF 8AM~10PM 第1、3日休 7217

★旬のおいしさそのままにオープンして10カ月が過ぎ、固定客もついたおでん

# ★愛読者の皆さんへ おいしいプレゼント あられの小箱

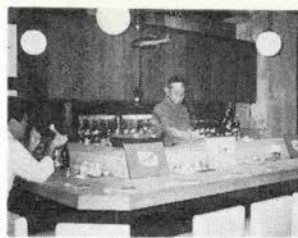
銀の包みに可愛いあられの伝統の日本の味を、こだわ



ち続けて守り通す八木茂さん。直径5ミリ以内の大きさでもしっかりと形を保っているのは、独特の製法があるからとか。「機械化が難しく、大切な所はやはり手作り」と語る八木さんは、又、「おかきのデザイナー」でもある。魚や梅、扇等、季節感あふれるあられを作っている。風見鶏等、神戸名物にな

八木茂株式会社代表取締役八木茂さん  
「たい」と意欲満々だ。  
■形も味も大ききもうれし  
オリジナル銀包装3種類1セットを10名様にプレゼント。  
住所・氏名・賞を記入のうえ「ひっといん・あられの小箱」係まで  
■商品のお問合せは341-5670(へんどう)

匠・藤吉。人気の秘密はあつさりした独特の鰹だしにありそうだ。おでんのネタは60種余り。大根、里芋、ごぼう天など、いくらでも食べられるから不思議。ユニークなネタも続々登場で、茶わん蒸、串かつまでおでんなってしまおう。素



あっさり薄味がお酒にピッタリ

材の一番おいしい時を味わっていただきたい」と藤田店長。全国各地の酒が100種。ゆったりとした空間、静かに流れるジャズをBGMに、伊万里の古陶器で一品ずつ供されるおでんと酒に舌鼓。心までホコホコ温まります。

■中央区北長狭通1-21-2 サン  
メイビルB1 日曜休 5/12 PM  
392-73321

★トアロードにTEITE朝がゆ・飲茶がOK。この秋、トアロードに、素敵な広東料理のTEITEがOPEN。「今、自分が本当に食べたい味、本当に行きたい店で、自宅へ友人を招くような雰囲気です」

## ●神戸

### お奨めスポット

#### 肉料理 しゃぶ花心

神戸市中央区北長狭通1-4-2  
あじびる三宮4・5F  
078-332-3456  
平日16:00~21:00 土・日祝  
12:00~21:00 年中無休

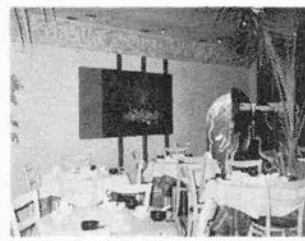
居酒屋、炉端焼で賑わう北長狭通のあじびる「しゃぶ花心」。しゃぶしやぶ、すきやき、焼肉、鉄板焼とお肉の食べ放題メニューが多彩にそろっている。

一口に「食べ放題」といっても、肝心の肉の量にもたりない思いをした人も多はず。「花心」



お酒落な店内

は自慢の山形牛をはじめ、良質の肉をたっぷり用意しているので安心。こだわりの味の結実——特上和牛の味をどうぞ。  
食べ放題は1980円より、飲み食べ放題は4000円より、いずれもしやぶしゃぶ・焼肉・鉄板焼、4



店内には月変りてアートが飾られる

と、オーナーの郭范煌さん。彼の心意気を感じるインテリアは漸新だけと暖かく、嬉しいことに朝がゆ(日祝)や飲茶を昼下りにやっている。ランチタイムは600円から。夜のフルコースは3800円から。味は広東料理の本格的な味に、ライ

つの味がセレクトできる。

尚、同店では数々の特典を集めた「グルマンド・クラブ」を新たに発足。入会金は千円、有効期間は1年間。入会は直接同店で。



写真は¥2980のコース  
で「しゃぶ花心」保花  
「しゃぶしやぶ・焼肉」  
を3名様で5組にプ  
レゼント。希望者は住所・氏名・年令・  
費を記入  
して月刊  
神戸っ子  
「ひっと  
やいん・し  
やぶ花  
心」係ま

ト感覚を持ちこんでいるところが神戸らしい。  
■中央区下山手通3-11-17 月曜  
休 11:30~22:00 日祝は10:00  
~21:00 ランチタイム 11:00~  
16:00  
333-6888

### ★大正ロマンの料理を表現 「美食倶楽部」神戸店

大正時代、陶芸と美食の両面に異才を放ち、独自の境地を拓いた芸術家・北大路魯山人。その魯山人の心



貴方も本格派グルメにノ

を現代に受けつぎ、店作りをしているのが美食倶楽部。店内はレトロ感覚で、シックなアールデコ調インテリアとシヤガール、ローランサンのリトグラフが大正ロマンをほうふつさせる。おすすめは魯山人が当時調理していた献立を再現した「魯山人コース」(7000円)・日本料理に新しい趣向を凝らした「ラ・懐石」(4000円)など。寛ぎのひとつをぜひ一度。

■中央区北野町1-3 新神戸オリ  
エンタルパークアベニュー3F  
262-2800

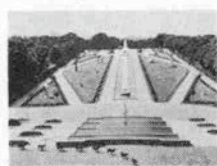


# ポケット ジャーナル



## ★芸術の秋、彫刻の秋(Ⅰ)

神戸で一番新しい海上文化都市六甲アイランド。その中心となる六甲アイランドCITYの、街づくりの構想に添った彫刻の設置を目的とするコンペが行われる。テーマは「たわむれ」



今年度の彫刻展の全景  
開催される(午前9時～午後5時)  
テーマは「夢」

海の手に育つ子供たちへの贈り物「日・光・波等の自然のたわむれ、又は自然や動物とのたわむれ、親と子・仲間たちとのたわむれの中で、むつみ・慈しみ・なごみ・和らぎを表現するもの。優秀作品には大賞500万円他が贈られる。申込資料御希望の方は、120円切手同封のうえ左記まで。

〒530 大阪市北区堂島2-1-2、近鉄堂島ビル20F、積水ハウス六甲開発事業部内「六甲アイランドCITY彫刻展委員会事務局」まで。  
電話 06-3441-6064

## ★芸術の秋、彫刻の秋(Ⅱ)

新鋭作家を世に紹介するなど、数多くの成果を収めてきた「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」が、今年も10

月1日(土)～11月10日(木)の41日間

の41日間開催される(午前9時～午後5時)

世紀へ向けてますます心の豊かさが求められる中で、彫刻がこれからの街づくりとそこに生きる人々に、どのような「夢」を与えることができるかを問う。

★活かせ町並み、創ろう景観。兵庫・町並みゼミ

昨年10月出石町で開かれ他府県からも含めて、約250人が参加した兵庫・街並ゼミが今年度は伊丹市で開かれる。



町並みゼミは、誰でもが手弁当で参加できる注目の団体や地元の有志、自治体を中心になつて運営される開かれたゼミ。

ミ。まじめな勉強、報告以外にも、懇親会や町並み見学会などの楽しい企画がいっぱい。

各地で町並みの保存や環境づくりに取り組んでいる仲間が、伊丹に集まり、伊丹を語りそして阪神間にまで夢を広げていく、そういう機会にしたいということだ。申し込み、問い合わせは兵庫・町並みゼミ実行委員会まで。電話 842-2311

## ★沿線風景を撮ろう!



昨年の展示風景

サイズはカラー六切り、白黒四切り、白黒四切り以上。作品の裏に題名、住所、氏名、年齢、電話番号を書いた応募票を貼付し、地下鉄各駅又は交通局管理課(〒651中央区雲井通五一一)へ10月31日までに。入賞作品は地下鉄三宮駅コンコースに展示される。

また中学生以下の児童を対象とした、写生コンクールも実施されるほか、10

## 誕生日 ありがとう

### 運動



はみよん どまむにだ

ソウルで開かれるオリンピックを反映し、いま韓国の多くのことが紹介されています。韓国の現況、韓国人によるグループでは「はみよん どまむにだ」という名の愛光芸術団が来日し、手話で荒城の月を合唱し、韓国の古典舞踊である扇の舞を演じています。はみよん どまむにだとは、なぜはなるという意味でそうで、団員の心意気も窺われます。

今年の夏もスポーツの話題が豊富でした。障害者の「はみよん どまむにだ」も目につきます。東京の増嶋さんは足が不自由ですが朝鮮海峡を二八キロ泳いで七月十九日に釜山港外に着きました。一方釜山からは韓国の身障者四人がリレーで八三キロを泳いで八月五日朝、長崎県上県町にゴールインしました。八年前に海峡横断に成功されたコーチについての特訓が実を結んだそうです。

神戸を中心に高校総合体育大会が開かれましたが、男子剣道では宇都宮学園の俊腕の池田選手が活躍が目につきました。三歳の時、交通事故で手を失いましたが、剣道を心の支えとして立派に成長しました。左上位が得意技で、昨年は県予選で三位、今年度は県代表の栄冠を獲得し、全国大会では三位に進み、多くの観戦者に爽快なイメージを残しました。

## 誕生日ありがとう運動本部

651 神戸市中央区御幸通八十一番六  
神戸国際会館一階・郵便局の隣  
電話 078-331-2114

10日(祝)10時〜15時、総合運動公園駅周辺で写生大会も行われる。全て問い合わせは交通局管理課 331-7403まで。

★1500 mlの大瓶シャンペンで、100回記念を祝うノ神戸ワイン・サロン(長島隆会長)が、10年前に誕生し、10月1日で100回目の例会を迎えることになり、記念パーティー「萬国葡萄酒の宴」を、相



長島隆会長を、相楽園会館で開催する(6時より)

一番の呼びものは、1500 mlの大瓶シャンペンをサールで開栓する難しい儀式「サベラージュ」。これを日本有数のグラン・ソムリエが披露する。また日本では前例のない巨大シャンペン(15ℓ、普通瓶20本分、サロン創立の1979年産)の冷却法やサービスマも楽しみ。

当夜のワインの取揃えも1979年産を中心に、神戸ワインはもちろん、グルメ垂涎のロートシルトまで巨大瓶で揃い圧巻。

★居留地にはアンティークがお似合い、リブラブウエスト、ブロック30、と旧居留地界隈の



新しい開発に力を入れている大丸神戸店が新たに「コロニーハウス」をオープンした。店内はヨーロッパの古くから

伝わるアンティーク家具が所狭しと置かれ、それぞれ「オリジナル」「エイジド」「レプロ」と年代順に分類表示されている。今まで素人には扱いにくいとされていたアンティークを身近に感じられる店になりそうだった10月8日にはリブラブウエストの復元工事が完成11月初旬にはコロニーハウス2Fにレストランレットロがオープンとまだまだ居留地からは目が放せない。

★今年も開催！

女30人会展示即売会



が一堂に集まり、開催する「おんな30人会」。

5回目を迎える。今年1月の本誌でも紹介されたが、ニットの塚田富美子さんを

中心に昨年から準備を進めており、今年も力作が並びそう。女性パワーは細やかな心使いが特長。お値打ち品がきつと見つかるかも？



跳び箱十段とんだ！ 水野 茂 編



明子 世界各民族舞踊団が共に集い、

★おどりで結ぶ国際交流 国民文化祭の一環として催される「民族の祭典イン神戸」は、国際都市神戸にふさわしく日本のみならず世界各国の民族舞踊団が共に集い、異なる文化や情報を結集し、刺激しあうことで新しい文化の創造と国際文化交流の促進をめざす。

●10月28日(金)18時〜神戸文化ホール大ホール。(司会江崎三、金沢明子) パート1: オープニング、パート2: 世界のおどり、パート3: 日本のおどり、パート4: フォーリレ、華やかで威勢のいい催しとなりそう。

★二十歳になりました

おしゃレになりました 20周年を迎えたメトロこうべが装い新たに先月4日オープン。明るい雰囲気話題を呼んでいる。

高速神戸〜新開地を結ぶメトロこうべはショッピングや遊戯場があるものの「地下」のマイナスイメージは払拭しきれなかった。が今

# 図書ガイド



虎静俳句集 木割大雄



チェリプロ ツサム物語 原作/ 工藤 純子 マンガ/ 伊吹 城 内田 ひろ

マンガで読むファッション業界入門書。ファッション業界に就いた1人の女性のストーリーを通じて、業界の仕組み、内情が理解できる、ファッション業界志望の人や、興味のある人には格好の一冊。(青春社刊 780円)



回は見事なイメー

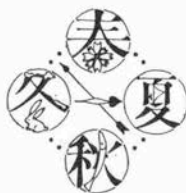


ジ。通路の壁面に乗物や12星座が描かれ照明もグッとレベルアップされた。

ツブされた。

オープン記念の卓球大会には4日、9日合せて約500人が参加。ギャラリメトロでは「神戸・日本・世界この20年写真展」が開かれ訪れた人々の目を楽しませていた。今後は中央の「星の広場」でもイベントを計画。これからが楽しみだ。  
★ミュージカルへご招待ノ

## 花 時 計



ミニ独立国への格  
言葉!!

イベントは全国的に花盛り。ならシルクロード瀬戸大橋、ホロンピア博等々。だがいずれもが四苦八苦らしい。

ニューヨークのオフ・ブローウエイで一、〇〇〇

回を超える世界最長ロングラン記録を更新中のミュージカル「フアンタスティックス」の日本公演が行われる。味の素株式会社ではこの公演を記念して、「バルスイート」フアンタスティックス招待ブックレットをファイレゼン



トを

実施する詳細は左記。

応募方法:「バルスイート」全商品のバルマーク又は新バルマーク500円分以上一口を同封の上、住所氏名、年齢、電話番号、お買い上げ店名、ご希望の公演日を明記、封書にて、〒104-91東京都中央区京橋郵便局私書箱80号、味の素神戸「バルス

神戸ポピア博のミニ

ミニ版ならまだしも似たりよったりの促成栽培では動員は難かしからう。ミニといえば華々しく独立宣言したミニ独立国家群はいまどうなっているのか調べてみるとブーム時は全国に二百近くあったのが半分以上が休国、消滅その興亡や哀れ、ムラ起しや過疎の活性化は大統領、国王、ミヌ十二軍衣をつくっただ

「バルスイート」フアンタスティックスプレゼント係まで。10月10日当日消印有效、賞品:A賞ベアのご招待券50組100名(10月26日・30日各10組20名)中之島SABホール。B賞オリジナルヒーロカップセット。賞品の発送をもって発表にかえる。

★読者プレゼント

男性もおしゃれになった昨日、下着にも気を配ろうという下着も、おしゃれなことトム商



品の実を園っているグン

ぜよりビキニブリーフを、先着20名様にプレゼント。●ハガキに住所、氏名、年齢、サイズと神戸つと明記の上、大阪市北区中崎西2-4-12梅田センタービル11Fグンゼ神戸アパレル事業本部企画販売一課「YGSスポーツプレゼント係」まで

けで出来るのなら魔法の泉だ。

県下のミニ独立国よ。成すは成さざるに勝れりだが最善のうえに最善のあることを知り、初一念を忘るるべからず。

せっかくの名案にさらに独自性ある創意工夫を重ねて努力せよ。努力努力、果実は必ず秋には実る。前進前進。活性化のためがんばれ!!

(Y)

## ●KOBE POST

★10月26日(水)午後1時30分より神戸国際会館大ホールにおいて

明石短期大学の文化講演会が。講師河合雅雄(京大名誉教授・日本モンキーセンター所長)「人間を生きる」(無料)申込明石短大庶務課)ハガキで明南町2ノ1ノ50

★詩人の三浦照子さんが、美術書院より随想集「三浦照子短編集・さよならポロニヤ」を出版。10月20日(木)午後六時半より、兵庫県教職員会館ホールで開く。

★小林信次郎氏(大阪工大教授)が、山口書店よりW・E・B・デュボイス「黒い巨人」(A5判・490頁)を訳出・上梓されました。訳出作業は18年の歳月を要した力作。10月1日(土)の午後4時より、ホテルキャッスプラザで、出版記念会が開かれました。

★神戸電通の田代堂さんが定年退職され、元町日友堂で9月30日夜勤まされが聞かれました。

★神戸市神戶映画社へ出向していた海津洋一さんが、9月1日付でサントVプロデューサー室へ帰任されました。

★神戸21Cの落合一生代表取締役専務が、9月1日よりダイエーサービス事業本部に転任され、藤井良一氏が後任に。

★行動美術の中石環さんが、ミラクル・ブルの「世界」(シェリット・リンド)(抽象画集)2千円限定5百部を刊行。写実との出会いも含めて。

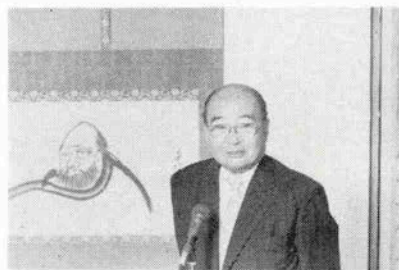
★10月30日(日)午後3時より「LIVE5KOBE」のテーマで、徳田雅幸さん(ピアノ・ボイカル)のチャリティコンサートが三宮星電社南館カースト8Fリビングホールで(3000円)

★元編集部の山中義明さんと西村知恵さんが、10月9日に六甲カトリック教会で結婚されます。

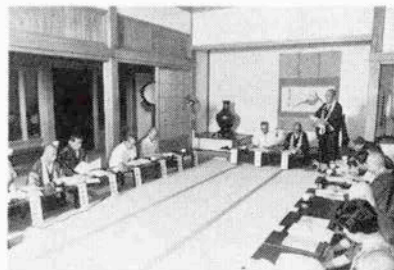
★編集部の松井恵が、9月10日、細田達也さんとゴールイン。おめでとう。

★写真家小山保氏の見子夫人が、病氣のため九月一日に死去されました。心よりの御冥福を。

# 福原西国三十三所観音霊場



兵庫津復権振興協議会高田静夫会長のあいさつ



宝満寺で行なわれた福原西国霊場会総会風景

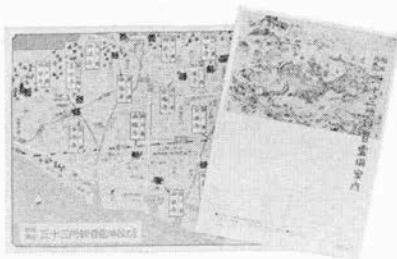
九月七日。

宝満寺で福原西国三十三所観音霊場会の総会が行なわれた。西国三十三所観音霊場といえは京都を中心に近畿一円に点在する霊場が有名だが、実は各地に巡礼地が設けられており、福原西国もその一つ。その歴史は意外に古く、宝永七年（一七一〇）に書かれた「兵

庫名所記」にも登場する。

この霊場案内のイラストマップを出版した「兵庫津復権振興協議会」は昨年十月に兵庫地区の発展を願う地元企業、自治会によって結成。郷土の伝統、史跡を見直しが、今回の福原西国霊場の掘り起こしもその一環。兵庫地区の地盤沈下に歯止めをかけ、復興につながれば、という願いが観音霊場巡りという史跡探訪のスタイルと結びついた形になった。

総会では同協議会より一か寺につきイラストマップ一〇〇部の贈呈式を始め、集印帳の作成や霊場寺院巡拝についての諸問題等、スタートに当たって円滑かつ、巡拝



霊場案内イラストマップ

者に喜んでいただくといった具体的な必要事項が約二時間にわたって意欲的に討議された。



霊場会事務局長龜山泰嶺宝満寺住職

兵庫地区には古い寺院や史跡が沢山あり、この文化的な価値は相当なものであるにもかかわらず、震災により伽藍全焼した寺院も多く近年復興されるまでその価値が知られないままになっている場合が今まで多かった。

「私原西国観音霊場を掘り起こす事で、この寺院や史跡というものを多くの人が再認識し、またその結果として道路、交通網の整備を行政にもアピールしてゆければ。」と会長の高田静夫さん。その言葉は地域のひとりのとしての強い願いを感じさせた。

全兵庫認定「葬祭専門士」資格取得者  
株式会社 大谷徳風社  
代表取締役 大谷 晃 世

全国葬祭事業協同組合  
神戸葬祭事業協同組合理事  
神戸市規格葬儀取扱指定店理事  
本社／神戸市長田区松野通1-11-12  
☎078-621-0089  
鈴蘭台支店／☎078-592-5485



ピアノスト  
伊藤ルミの

# 美男対談

第5回

神戸商船大学教授

井上和雄

人より遅れて  
生きて来た。

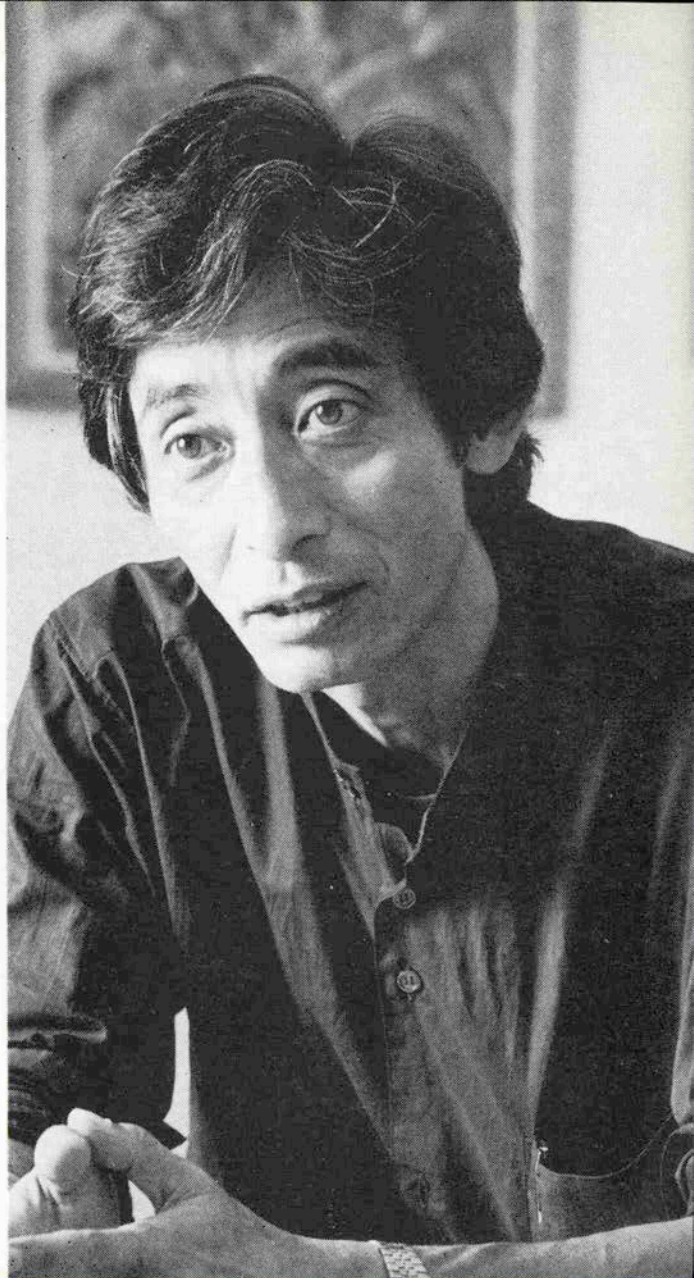
ピアノストとして活躍中の伊藤ルミさんをインタビュー  
アーに迎えた「美男対談」第五回。ゲストは神戸商船大  
学教授・井上和雄さんです。もともと経済学がご専門で  
すが、昨年『モーツアルト心の軌跡』（音楽之友社）で  
サントリー学芸賞を受賞、この七月にも『ベートーヴェ  
ン闘いの軌跡』（同）を出版、最近は音楽評論家として  
も活躍中の井上先生。今回は大阪中之島の「ふたり展」  
会場へおじゃましました。

★自分自身が見えてくる

ルミ まず二人展おめでとうございます。二年半ぶり  
で井上さんの絵に接することができました…なんて、文  
章みたいなしゃべり方…（笑）

井上 なんか勘ぐるうね（笑）。そもそもルミちゃんとは  
もう何十年になるかなあ…。

ルミ 二十四年くらい…たぶん。だから、だいたいわか  
っているのね、本当はインタビューしにくいんです。



井上 そうやねえ。

ルミ でもまあ、それはいいとして…。あのう、井上さんと私との出会いは音楽だったんですけども。コーラスの指揮者が井上さんで、私が伴奏をやっていた時があった。私が中学生で、念のために言っときますが。

井上 中学生やったんか。

ルミ そうですよ。中三ですよ。

井上 シューベルトのミサかなんかやってもらったな。

ルミ そう、ミサ曲。それを教えてもらったのが、私、いまだに忘れられなくて。

井上 僕も覚えてるよ。4拍子がとれなくてね(笑)。

ルミ この頃やと拍子がとれるようになりましたよ(笑)。でも、そういう事を井上さんが覚えていて下さってる。それがまた、驚きなんです。ま、出会いが音楽で、いつの頃からか吉田修二さんとの絵の二人展を開くようになられて。二年に一回ぐらいおやりになってますが、今回が八回めだからもう二〇年ぐらいですよ。井上 そうねえ。ルミちゃんはいたい来てくれてるよねえ。

ルミ で、最近では文筆家としても活躍なさって…。『モーツァルト 心の軌跡』を出されたのが去年で、それから経済学の本を出されましたね。

井上 ええ、この三月、『資本主義と人間らしさ』(日本経済評論社)を。

ルミ 『モーツァルト 心の軌跡』ではいきなりサントリー学芸賞を受賞なさって、その取り方っていうのも井上さんらしくてね、本が出る前から「取るぞ!」ってな感じで。「相当な自信家なんだわ」なんて思ってたんですが、私はまだ賞を取っていないんですが、賞を取る立場にある者として決定前から「取るぞ」というようなことは言え

ないと思うんです。だから、その辺の心理状態にとっても興味があるんですが。

井上 あのね、10年ほど前、モーツァルトのレコード全集がでた時に懸賞募集があって、あの時も取ったわけよねえ。

ルミ その時も「取る」っておっしゃってましたよねえ。

井上 うん。それはねえ、書いた時にわかんねん。

「これ以上書けるやつはおらん」という。(笑)

ルミ そこら辺がねえ。(笑)。井上さんを知らない人が聞いたら、「なんてイヤなやつだ」と思うと思うんです。私もそう感じると思うの。ただ、知ってる人間が聞くと本当に「取るだろうな」と思えるんです(笑)。

井上 ほんとでやっぱし取ったしな(笑)。

ルミ だからその自信というのがね、どこから来るのかなと思っ。

井上 あのね、自信というのかねえ…。僕にしたらね、「自分が断然すばらしい」とかね、「誰にも負けない」とか、そんな自信のあり方とちよつと違うねん。他のものと自分のものとを比べてみて、明らかに自分のものがないとわかるんよね。もちろんサントリー賞なんかの時



「出会いは音楽で…」と伊藤ルミさん



はこちらは他の人のを読む立場にはないわけやけど、これまで音楽評論みたいなものを僕は読んではいけない。だからある程度想像がつくわけやねえ。その判断をする時にねえ、何て言うんだらうな「自分の色メガネで自分を見る」という感じは全くないから、だから、あっけらかんと言えるわけよ。「これは俺の方がいいで」と。僕にしたなら「見えてしまう」という感じやねえ。

ルミ でも普通そういう人だったら、すごく客観的で理性的でっていうような人に思えるんだけど、それがね、井上さんの文章とか人柄に接すると、すごく直観的っていうか感覚的、主観的。

井上 思い込みが激しいとか、人から言われるんですよ。ただ、僕にとってはね、主観的とか客観的とかいう区別が全くないねえ。あのねえ、人間というのは実は主観を離れてものは見れない。でも、その主観にはね、自分を見ているもう一人の自分がおるねえ。まあ、そんなことがいつもできるといふ訳じゃないけど、ただ、自分の書いたものに関しては少くともみごとに覚えてくるね。

★ベートーヴェンはいやらしいヤツ?!

ルミ 「モーツァルト:」はずっと「出すあてなしのラブレター」みたいな感じで書きためてらして:。

井上 10年間ぐらい。本のもとになる半分ぐらいかな。

後半は文字どうり書きおろしやけどね。

ルミ でもね、すごいなと思ったのはね、モーツァルトを出してから経済学の本をバツとお書きになる:。

井上 いや、あれこそね、論文を六年間ぐらい書きためたものを本にしたからね、あれはそんなに苦労してない。ただ、経済学の本職としては当然、力を入れてるわね。日本の学界を相手にしてるわけやから、もちろん緻密な構成にしてるしね。

ルミ 井上さんは音楽も「ブタコレラ」「ブダベスト」のもじり)っていう弦楽四重奏団を二五年間も続けていらっしやるし、絵も二年に一回、個展を開くほど力を入れていらっしやるし、本業は適当にしていらっしやる

人かなと思ってたんですよ(笑)、申し分けないですが。でも経済学の方もしつかりやっていらっしやるんですね(笑)。

この七月には「ベートーヴェン 闘いの軌跡」という本もお出しになりましたね?

井上 あれはねえ、「モーツァルト:」が評判よかったでしょう。だから受賞作家として売り出したい、という出版者の希望もあったんですね。

ルミ ベートーヴェンと言えば、私の最も好きな作曲家の一人で、今のところモーツァルトよりも好きなんです。が、どれくらいで書かれたんですか?

井上 だいたい四カ月ぐらいかな。

ルミ りっぱな本ですねえ、内容も濃いいし、人間性にも別の面から光をあててらして、私のような、ベートーヴェン崇拜者にも納得させるというか、その弱点をも描き出して、とても説得力があるんですが。

井上 いや、最初は全体の構想がぜんぜんなくてね。とにかく、ベートーヴェンというのはすごくいやらしいヤツや。

ルミ どうしてですか?

井上 そら音楽を聞いたら歴然としてるわ。

ルミ いやあ、そうかしら。

井上 でも、それだけいやらしい部分をいっぱい持つところから、あのすばらしい音楽ができるんよな。そのカラクリをね、言葉でとらえたい。その思いだけで書き始めたけど、書き始めたらどんどん勝手に書けたねえ。あれはねえ、三章にわかれて、初期、中期、晩年とあるでしょ。で、初期の最後とところでベートーヴェンが耳をやられて、その耳をやられたことによって彼は人間の宿命というか運命というものと、本当に深い所で対決することができて、またそれによって新しい世界が開かれたんだ、という着想が書いてるうちにパーと入って来てね、それを文章にした途端にどんどん書けたね。

ルミ 何か、読んでたらベートーヴェンが生前、理解さ



れなかったことを井上さんの筆を借りて言ってるみたいな気がして：

井上 でもベートーヴェンは「俺、こんなと違う」と言うんじゃないかと思うよね。彼は「俺は最後まで自分の力で生きて来たんであって、自己崩壊なんてとんでもない！」とね。その意味では彼は僕の書き方を否定すると思うわ。

ルミ でもそこまで生きられたというのが魅力的！

井上 まあ、そうやね。そやけど、まわりの人間は大変やで(笑)。

ルミ 芸術家の奥さんは皆たいへんだわ……。井上さんの奥さんも苦労なさってるんでしょうか？

井上 苦労してるやろね(笑)。でも僕は芸術家ではないもんね。学者がやっぱり僕の仕事やからね。

ルミ では学者としての井上和雄を自己分析して下さい井上 いや、そう言われたら僕は横着だしね、気分屋だしね。勤勉じゃないね。ただ、本当は学者も芸術家も同じだと思うんです。どちらもものすごくクリエイティブな仕事やしね、全く一緒やと思うわけよ。また、それが僕の若い時の理想やったわけよ。

ルミ いっだったか、井上さんの受賞パーティの時、井上さんのスピーチの中で「僕はずっとドロップアウトだった。人より遅れて生きて来た」とおっしゃってましたけど、あの言葉が忘れられなくて：

井上 そう。その「ドロップアウト」意識は抜けきれないね。だから、つらい人にはどうしても甘くなるね。

ルミ だから、私のコンサートの批評なんか、ズバツと飾らない言葉で、言いたいことを言ったださるんですけど、全然、傷つかないんですね。むしろ励まされてるのがわかるんです。

井上 そうとってくれるとありがたいね。

ルミ やはり、人間に対してあたたかいんですね。これからも厳しい批評をお願いします(笑)。本日はどうもありがとうございます。



連載小説〈5〉

# 靴

西本衣江  
絵／犬童 徹

15

美保は何となく重い心をかかえ、家路へと向う。足先に木枯しのつめたさを覚えながら、家々の門燈に心せかされ、小走りとなる。姑の機嫌の悪い顔が臉に浮かぶ。家に帰ると、夫はまだ帰宅していなかった。ほっとする。

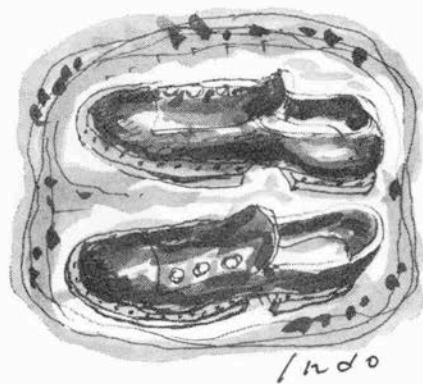
姑に帰宅のあいさつをして、離れの部屋で着替えをしながら、今夜夫に、どのように話を切り出そうかと考える。

夜八時頃、夫は気嫌よく、帰って来たが、少し疲れているふうだった。

お風呂を済ませると、バジャマのままで、茶の間にどっかりと腰をおろし、姑のはいっているホームごたつの中へ膝を入れる。

△忘れたふりをして、ガウンを揃えておかなかったのに。またこれだ。これがいやだ。すぐ離れへ行ってくれたらいいのに▽

仕方なく、ガウンを持って来て肩から着せかける。背中を膝頭で、ガツンとしてやりたい衝動にかられる。



△「今日は疲れたからもう寝みます」と、どうしてこの部屋を素通り出来ないんだろう。一時間ぐらい、すぐたつてしまうのに▽  
いらいらする。

△「お茶を」と言わなければならぬ▽

「お番茶でいいですか」

「ああ、疲れたから、ココアにしてもらおうか。お母さんはどうですか」

「わたしも一杯いただきましょうか」

嬉しそうな顔、声、めじりのしわが急にふえる。それさえも、今夜はかんにさわる。

△和夫を見る目がちがうのだ▽

「今日は、成績はどうやった」

姑の声を聞きながら、台所へ立つ。話の中へ入る気がしない。

△この調子だと、おそくなって、今夜も、もう話が出来ないだろう▽

今まで、言うのを遠慮し、辛抱して来た。

△もうおそいから▽

△今夜は、つかれているようだから▽

△明日が早いから▽

△とても機嫌がいいから▽

△こんな楽しい雰囲気の時……▽

と、のびのびになって、切り出せなかった。

考えてみれば、言いたいと思っている時は夫にわかるのかも？

夫は、私が言い出すことを、何となく恐れているのではなからうか。切り出させないように、わざと姑とゆっくり茶の間にいるようにし、離れに帰って来ると、

「ああねむい、ねむい」とか「疲れた」とか言って、ベットにもぐり込んでしまうのではなからうか。あれも、苦肉の策かも知れない。

姑と私の間に立って、夫が一番気を使っているようにも思えてくる。

然し、だからといって、このまま、ずるずるとすませることの出来る問題ではない。

例によって、夫は、おそくまで姑と話しこみ、なかなか離れに帰ろうとはしない。

「もう十一時になりますよ」



「ああそうか。知らん間に時間が経つ。明日の朝がまたつらい。それでは……」

やっと、腰を上げる。

「明日の朝がまたつらい」という言葉に、今夜は特に夫の計画にはまったような気がして腹が立つ。わざわざ聞こえがしに言っているようにさえ思えてくる。

廊下で、

「お話がありましたのに……」

と、ふくれて見せる。

「急ぐんか。疲れているから、明日にしてくれ」

「例の如し」、という結果になってしまった。

16

美保は、意気込んでいた気持を、はぐらかされ、よからぬ方へと思いが走る。

閉じているまぶたの裏が熱くなってくるようだ。枕が当たっている耳のあたりのどろろきだんだんはつきり感じられてくる。何回も、寝返りを打つ。

興奮は、なかなか静まらない。

△明日こそきつと▽と自分をなだめる。

寝ついたのは、二時を過ぎていたのだろうか。

17

夫を送り出し、朝の片付けを済ませ、ほっとして離れの部屋にかえる。

ガラス越しの太陽を背に受けて、新聞を広げる。

一日のうちで、美保の一番大切な時間である。しみじみと幸福感に浸るのは、この時。

母のこと、弟のことを思うのもこの時。

体調の悪い時も、早くこの時間になりたいと思う。

読み進んでいくうちに、ふと「近親相姦」という文字が目につく。

思わずかがみ込む。

目がぱつと開く。背中の太陽に、何となく頭がぼおつとしていた時である。

記事に目を走らせる。



“目立つ母子家庭”の見出しと、“男性の約一割が近親相姦”の四段抜きの太文字が、一度に、さっと目にはいる。

“近親相姦の悩みは深い”の書き出し。

息をつめ、呼吸も忘れる。

“男性の約一割”というのは、男性から“性の保健相談室”へ持ち込まれた件数の約一割ということであるとわかる。

△そら、そうやろな。多過ぎると思<sup>わ</sup>た△

ほっとする。それにしても、今まで、

△そんなこと、本当かしら△

と疑がっていたことが、現実<sup>じじ</sup>にこのように明かるみに出されたとなると、信じざるを得ない。

“母子家庭の一人っ子に多いんです。過保護のあまり、性衝動をよそへ向けないよう、母親が体をあてがっているんです……”

△“体をあてがう”なんて……。言いようもあるものだ△  
相談室主事の話が続き、

“ひどいになると、三十才を過ぎ、妻子がありながら、母親の方が切れないケース。現場を目撃した妻から……”  
記事に吸いつけられた美保の目は、又今の箇所を読み返す。

きつと結んだ口元。

“顕著な傾向としては、同性愛についての相談が……”

△関係なし△と斜読みで進み、読み終って、またじつと最初の“目立つ母子家庭”の文字を見つめている。

結婚前に“母一人子一人の場合、まま問題がある”というのを、友達から聞いていたし、何かで読んだこともある。然しそれは、他人様のことで、自分がそんな渦中になんて、思ってもみなかった。然しそのことは、心の隅のどこかに生きていて、しらずしらずの間に、何かにつけて、事をそちらの方へ持って行っていた。

“まさか”という気持が、“ひよっとしたら”という気持になって来ている。

うちの和夫は、唯親孝行というだけでなしに、お姑さんに、ちよっと気を使い過ぎていた。

新婚生活で、もっと楽しいものだと思っていた。友達から聞いた様子や、テレビドラマとは大分ちがう。

日曜日の外出というと、殆んど和夫一人で出かけ、一緒ということになれば、必ず姑を誘う。これも姑に遠慮してのことにちがいない。姑も「そんなら、お伴さしてもらいまひよか」と、必ずついてくる。結局自分がお伴のような形になり、楽しくもなし、疲れが残るだけである。

△なぜ、そんなに親に遠慮する必要があるんだろう△  
夫が先に出かけ、途中で出会ったといつて姑と連れだつて帰って来たことがある。

△あの時のお姑さんの機嫌のよかったこと△  
いつまでもお姑さんの顔や声が頭に残りいやな気持ちが続いた。

結婚後、日が経っていないので、着る物もちゃんと揃っているのに、姑は和夫の肌着類などを次々買ってくる。

変ったのが目についたから……。

バーゲンしてましてん……。

この頃、こんながええんかいな……。

“妻の役目”と書いていたことを、先々にされる。はじめは「有難うございます」と、受取っていたが、

△またか△と思うようになる。

“まだ手を通してないのもあるんです”

というと、“男の肌着のくたびれているのは、みっともない”と言う。

はじめは△そんなものかな△と素直に受け入れていたが、だんだんいつもの美保は姿をかくし、△清潔で、破れてさえないばいのに。どこで人に肌着を見せるんや△と、腹がたつようになってくる。

自分が家族のためにつくった夕食。和夫が食卓につくと、何時つくったのか、何時買って来たのか、  
“あなたの好物やで”

と言って出して来て、和夫の手元に並んでいるものを広げて、目の前に置く。

和夫も、

「うわあ、こりゃ有難い」

と、大きく喜ぶ。

和夫と姑は、見えぬ糸でつながれていて、自分は、そのらち外に置かれているようだ。

おとといの夜半。

確かに姑が離れの部屋の前廊下を、行ったり来たりした。ぱっちり目がさめ、神経が自然にそちらへ集中した。足音を忍ばせているようにさえ思えた。

便所は姑の部屋の側にもちゃんとある。

わざわざ遠い離れの便所に来る必要はない。

今までにも何回もあった。

和夫は、全然気がぬきに寝ていた。

△今夜は、どんなことがあっても言おう△

△そうだ。この新聞の記事を切り抜いて、机の上に置いて。それを話のきっかけにしよう△

新聞を片付け、切り抜きを机の上に置く。

咲ききそっている赤いミニシクラメンが、応援してく

れているようだ。

和夫を気嫌よくさせておく方が、話し易い。うんと、ご馳走をつくらう。

心はずませて、買物に出掛けた。

18

夕方、和夫を玄関で迎えた美保は、

「今夜は、早く離れへ引きあげてね」

と、早口に言った。

「何や、またあらたまって」

何かをさぐろうとするような和夫の目つきを、つきはなすように、

「話が……、後で……」

と、くるりと後ろを見せて、台所へ行く。

和夫は、今まで見たことのないような、美保の主張を、その後姿に感じ、どきっとする。

△お母さんと、何だったんやろか△

いつもと変らぬ夕食の様子に、ほっとしたが、食後美保が、忙しげに、さっさと片付けごとをするので、和夫は母に、

「日曜日の疲れが残っているのか、今日はどうも身体が





重かった。年かな。今夜は早よやすみます。お先に……」  
 「じょうずに言える口、持つとうやないの」

「ようあんなこと。年か」なんて。しつかりしなはれや」

和夫が離れに引き上げてくれたので、美保もすぐ後から、

「お先に……。おやすみなさい」

「あんたも早寝でっか」

「はあ、すみません」

「仲のええこっちゃ」と小さい声。

姑のいや味に負けないように、聞こえない振りして、さっさと離れへ引き上げた。

今まで出来なかったことを、今夜の美保はやつてのけた。

## 19

「話で何んや」

和夫の方から口火を切ってくれたので、ほっとする。

「土曜日の夜中に、お姑さんが廊下を歩いてはったん、

あんた気がつかなんだ？」

ずばり本筋へ切り込む。

「ああ、そんなことか。あれはお母さんのくせや」

「くせ？」

余りに思いがけない言葉に、美保は拍子抜けする。

「高校へはいって、僕が離れに寝るようになってからい

つもやった。ふとんはねてへんか見にきよったんや。

そのくせが残ったんや」

「うまいこと言うて」

「お嫁さんがおるのに、そんなことおかしいわ。私はい

やや。もう大丈夫やから、来んように」て言うて」

「そんなこと言えるかい。そのうちだんだんのうなるや

ら。実際回数、へって来てる」

「ちゃんと、知っていたんだ。知らん振りして……。こ

の際みんな言うてしまお」

「え？なんでや」

「あたりまえやないの。私が買いたいねん。男の人には

わからへんかしらんけど。そんなことにも、女の喜びが

あるんよ。そんなことはつきりわからんかったけど、お

姑さんにされてみて、わかったわ」

「ふうん。そんなもんかいなあ。今度買うて来たら、美

保が買いたい言うてます」て言うたわ」

「そんな言い方……。何かえ言い方ないかなあ、しよ

うがない。お姑さんに考えてもらうために、辛抱するわ」

「大きな問題や。どうせ一波乱はある。覚悟せんと」

口をついて出る言葉は軽くなつたが、緊張感は増して

くる。

「新聞の切り抜き見た？」

「いいや、なんや」

「これ」和夫に手渡す。

太文字を見た和夫は、

「お、ま、え。こんなこと考えとったんか……」

記事に目を走らせながら、

「あほやなあ……。それでかつかしとったんやな。あほ

らしいって何んにも言われへん」

切り抜きを、机の上にぽいと放る。

「何んでそんなこと思たんや」

「あんまり、お姑さんと仲よすぎるんやもん」

和夫はだまって廊下に出る。

美保はどきとする。

「おこったかな」

「あ、トイレだ」

ほっとする。

トイレの中で和夫はぶるつと身ぶるいをして、

「あいつ、あんなことを考えとったんか」

「親ばなれ」「子ばなれ」何時か友達から聞いた言葉が

頭をよぎる。

トイレから戻って来た和夫は、けろっとしていた。

(つづく)